

元気を世界へ

2025年9月17日

株式会社ファンペップ

証券コード4881



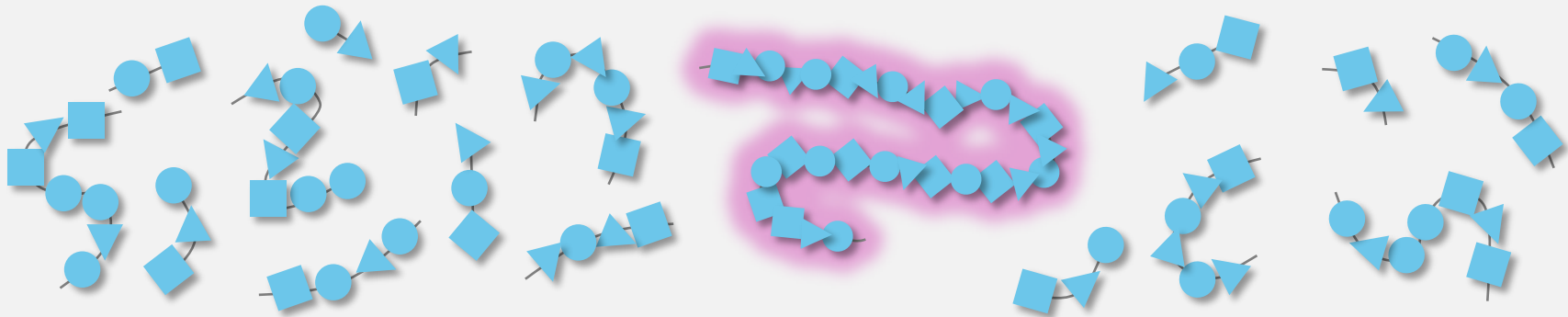
<http://www.funpep.co.jp>

- 本資料に記載された将来の業績に関する記述は、将来情報です。将来情報には、「信じる」、「予期する」、「計画する」、「戦略をもつ」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性がある」というような表現および将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます（これらに限定されるものではありません）。将来情報は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来情報は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来情報に明示または黙示されたものとは大幅に異なる場合があります。したがって、将来情報に全面的に依拠することのないようご注意ください。
- 本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の真実性、正確性や完全性に依拠し、前提としています。当社はかかる情報のうち、当社以外の第三者の公開情報等の真実性、正確性あるいは完全性について独自の検証を行っておらず、その真実性、正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。
- 本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。

ファンペップは、血管新生因子を探す研究をしているときに、
30個のアミノ酸からなる「AG30」というペプチドを
大阪大学大学院医学系研究科で発見したことがきっかけで創業しました。

そして、褥瘡などの皮膚潰瘍治療に重要な「抗菌活性」が「AG30」にあることや、
ワクチン開発につながる「抗体産生作用」はその後の応用研究で偶然に発見しました。
ファンペップの今の技術は、セレンディピティ(偶然の産物)が起源となります。

50個以下のアミノ酸が結合したペプチド



患者様および社会的に必要とされる薬とは？

治療が不十分な病気の薬

▼
Unmet Medical Needsとして
リストに示されている疾患の薬

先天性遺伝子疾患、がん疾患
認知症などの神経疾患、など

利便性が良く、経済性の高い薬

▼
既存薬よりも利便性が高く、
医療経済的に優れた薬

SR-0379（皮膚潰瘍治療薬）
FPP004X（抗アレルギー薬）

<開発品>

	開発品	対象疾患	事業化 想定地域	臨床試験 実施地域	探索 研究	前臨床	臨床試験			導出先等
							第Ⅰ相	第Ⅱ相	第Ⅲ相	
機能性 ペプチド	①SR-0379	皮膚潰瘍 (ひふかいよう)	全世界	日本	第Ⅲ相 (02試験)					塩野義製薬 (株) (全世界のライセンス契約)
抗体誘導 ペプチド	FPP003 (標的：IL-17A)	乾癬 (かんせん)	全世界	豪州	第Ⅰ / Ⅱa相					住友ファーマ (株) (北米のオプション契約)
		強直性脊椎炎 (きょうちくせいきせきついえん)	全世界	日本	第Ⅱa相					
	②FPP004X (標的：IgE)	花粉症 (季節性アレルギー性鼻炎)	全世界	日本	第Ⅰ相					塩野義製薬 (株) (全世界のオプション契約)
	FPP005 (標的：IL-23)	乾癬 (かんせん)	全世界	—	前臨床					未定

①SR-0379

追加第Ⅲ相試験を昨年12月に開始

前回の第Ⅲ相臨床試験 (01試験) の事後部分集団解析により特定の皮膚潰瘍患者に対する有効性が確認され、主要評価項目「外科的処置に至るまでの日数」についてSR-0379群は、プラセボ群に対して約5日間短縮。01試験で効果が確認された皮膚潰瘍患者を対象に有効性の再現性を確認するため、追加第Ⅲ相臨床試験 (02試験) を実施中。

②FPP004X

第Ⅰ相臨床試験を、今年3月に開始

健康な成人および季節性アレルギー性鼻炎 (スギ花粉症) の患者様を対象に、安全性、忍容性、ならびに免疫原性を主な評価項目として実施。また、スギ花粉症の患者様に対しては、スギ花粉に対する反応を確認するため、一定濃度の花粉を人工的に飛散させる花粉曝露 (ばくろ) 室を使用した試験を実施中。

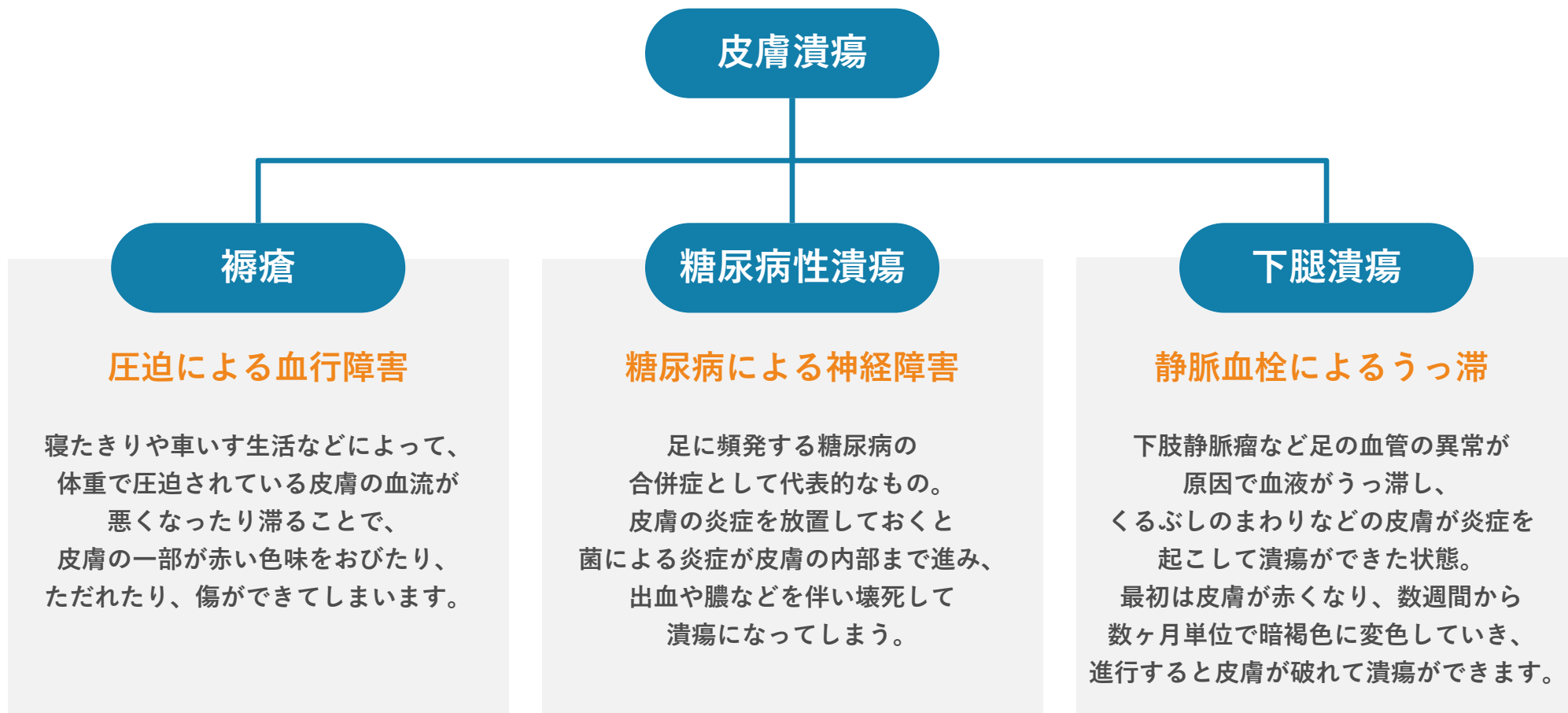
皮膚潰瘍治療薬 SR-0379



<http://www.funpep.co.jp>

対象となる疾患

皮膚潰瘍は主に3種類ありますが、
治っていく過程は変わらないので同じ薬を使って治療をします。



褥瘡によるさまざまな負担

褥瘡になると、患者さま本人だけでなく介護者にも負担がかかります。
介護量の増加で精神的なストレスにつながったり、
さらに治療代や入院費用など、経済的負担にもなる可能性があります。

本人の負担

継続する痛み

痛みがずっと続いたり、
傷口から菌が繁殖すると
感染症のリスクも高まります。



介護者の負担

傷口の管理

薬の塗布、傷口の洗浄、
定期的な体位変換、
栄養補給など



経済的負担

治療費用

薬や治療資材の治療用品代や
重症の場合は入院費もかかります。
さらに、病状が長引くと
その費用も増えていきます。



一日でも早い回復が必要

皮膚潰瘍治療薬（SR-0379）

皮膚潰瘍は皮膚の組織が一定程度欠損した状態。
寝たきりや車いす生活によって生じやすい「褥瘡」などを対象とした治療薬を開発中

既存薬よりも使いやすくなるPoint

Point 1

室温保存が可能



ベッドサイドに置くことができるようになる

Point 2

抗菌作用があるので、
今よりも治療期間が短縮できる

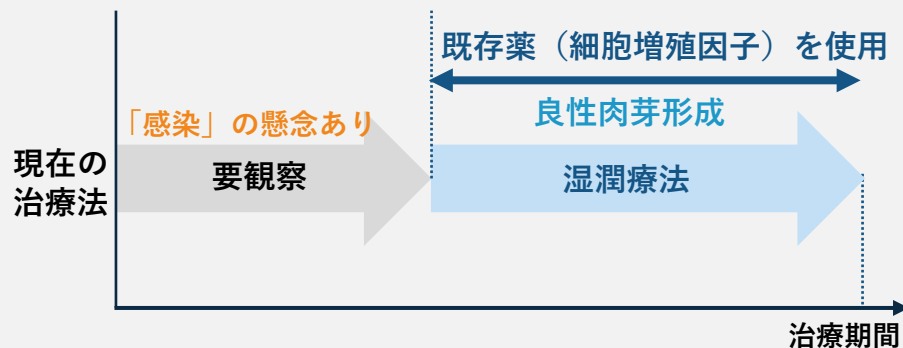


現在は、冷蔵保存が必要な
スプレー剤が使用されている

冷蔵保存



現在の治療法では、
「感染」の懸念がある場合には、
要観察となる



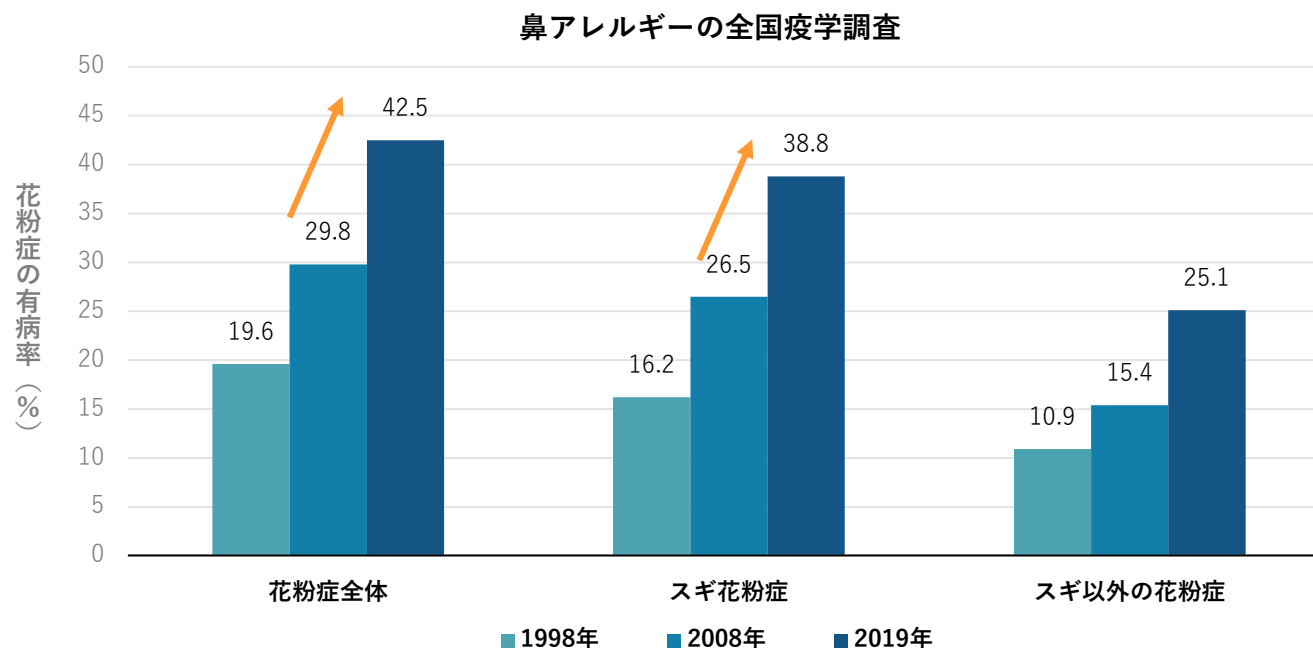
アレルギーワクチン FPP004X



<http://www.funpep.co.jp>

対象となる疾患

花粉症は、**有病率が10年間で10%以上増加している国民病**
さらに**有病率の増加が危惧されている**



(出所) 松原 篤他. 鼻アレルギーの全国疫学調査 2019(1998 年, 2008 年との比較): 速報
-耳鼻咽喉科医およびその家族を対象として-. 日耳鼻 2020;123:485-490.

有病率の高さと症状の激しさから、毎春社会問題としてメディアに取り上げられています。
自然寛解が少ない疾患であることやスギ花粉症の低年齢化などから、
さらに有病率の増加が危惧されています。

有用性

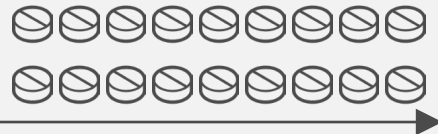
花粉シーズン前に投与することで抗体を作り、長期間効果が持続するワクチンを開発中。

現在の治療薬は
スギ花粉症の場合、
例年2月上旬ごろから5月初旬まで
約3ヵ月毎日服用

〈花粉シーズン中 毎日1回の服用〉

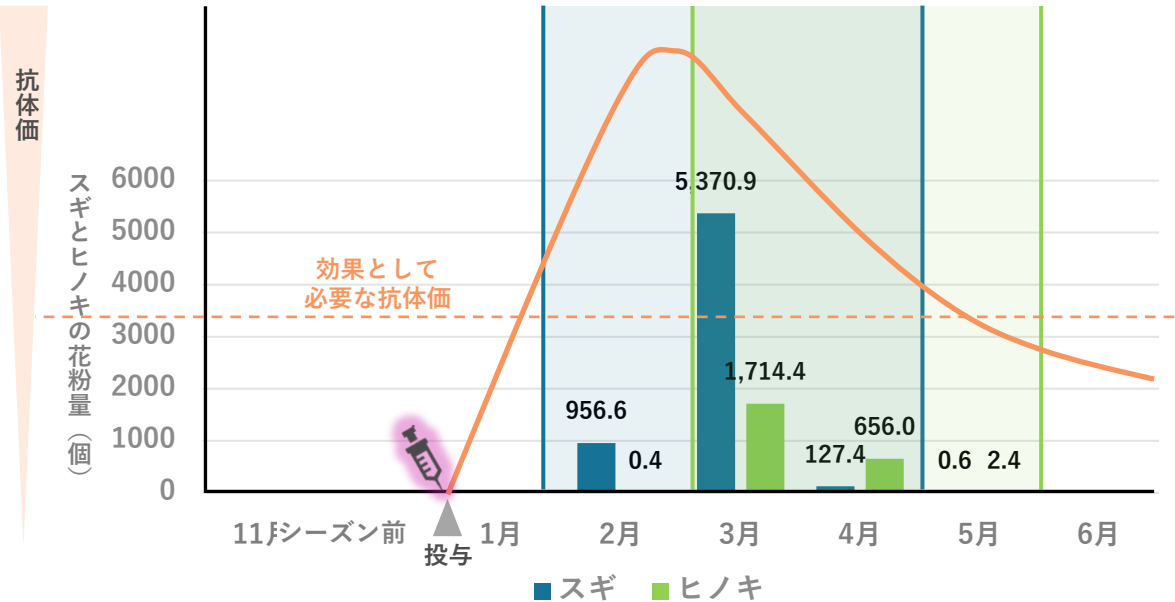


〈花粉シーズン中 毎日2回の服用〉



既存薬よりも良くなるPoint

花粉症のシーズン前に投与することで、
体内で抗体を持続的に作ることができ、
シーズンを通じて、花粉症の症状を緩和できる



NPO法人花粉情報協会のデータをもとに自社作成

※ 全国24地点の平均花粉量 (月合計)

単位面積 (1平方cm) あたりに落下する花粉数を計測

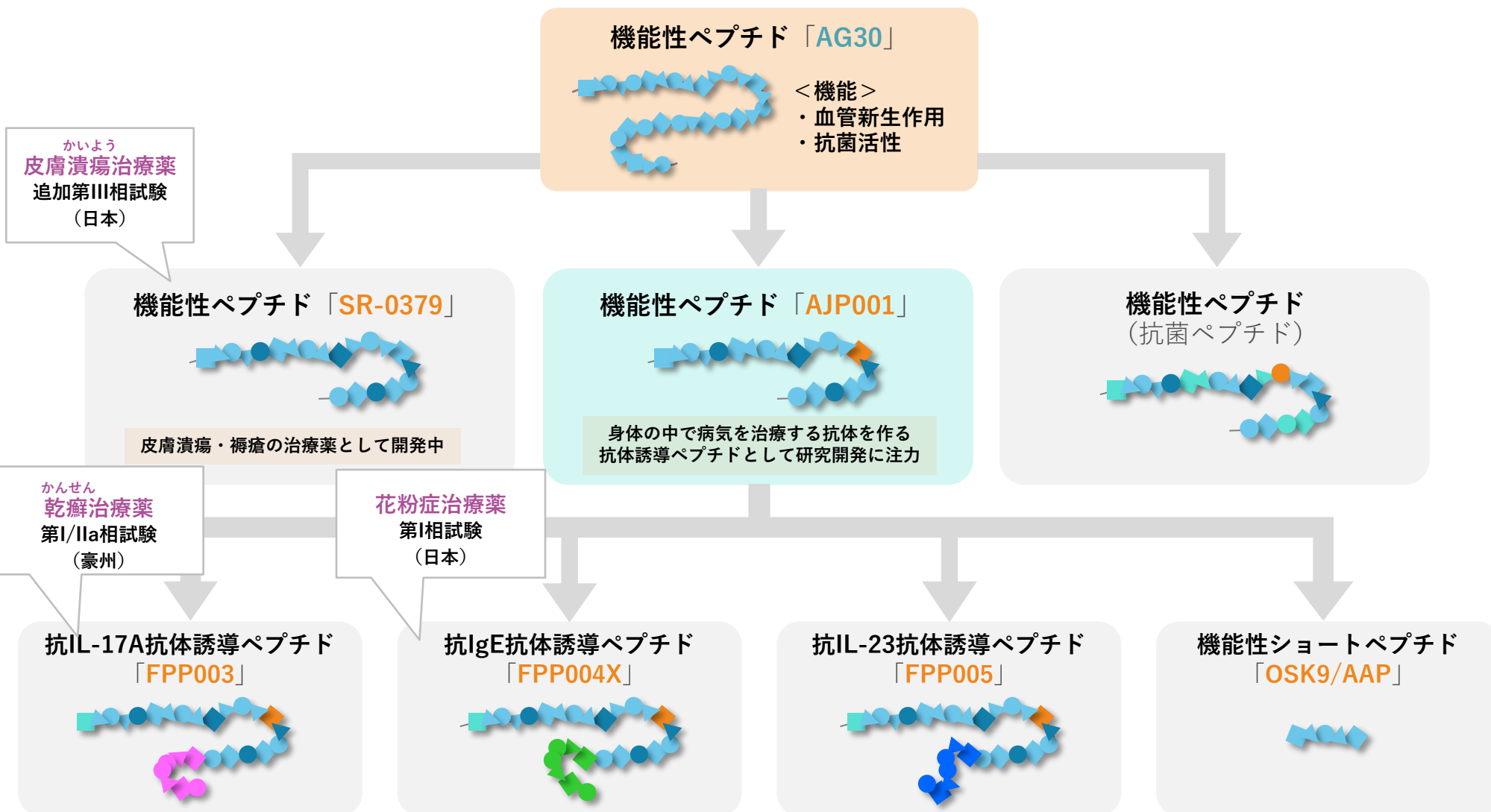
← スギ花粉 (2月-4月) →
← ヒノキ花粉 (3月-5月) →

新規開発品



<http://www.funpep.co.jp>

ペプチド加工ノウハウを強みに慢性疾患を対象とした治療用ワクチンを開発



「予防」 ワクチンから「治療」 ワクチンへ

感染症 予防ワクチン

ウイルスや細菌に対する
抗体などを作り出し、病気を予防する

体にとって異物なので
免疫が反応して抗体が作られる

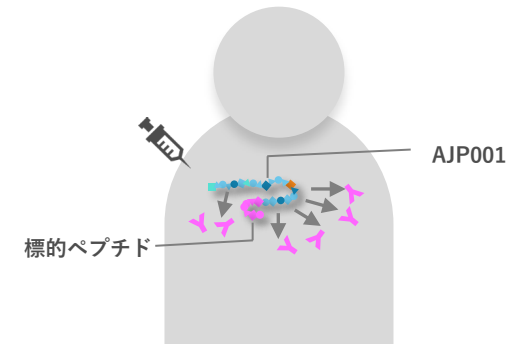


ワクチンには、ウイルス（全体や一部）等を用いる



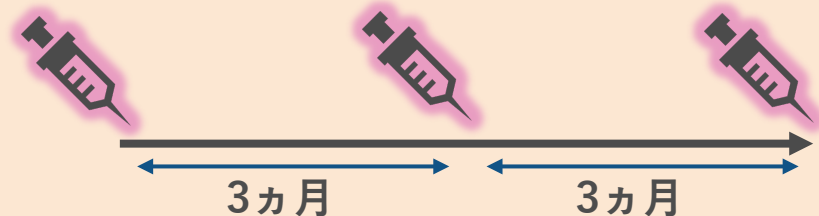
当社の抗体誘導ペプチド

ファンペップ独自の抗体誘導ペプチドにより、
体の中の疾患関連タンパク質に対する
抗体を作り出し、疾患を治療する

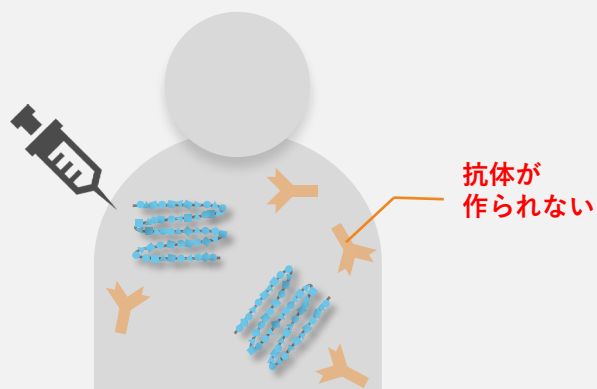


疾患関連たんぱく質(一部)と、
免疫力を向上させる物質「AJP001」ペプチドを使用

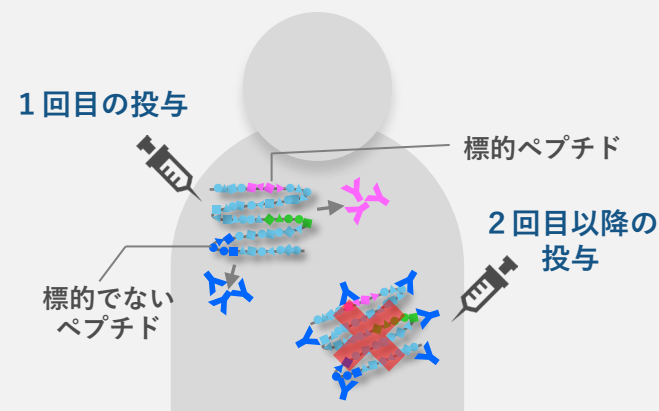
長期持続型治療用ワクチン



体の中にある自己タンパク
(疾患関連タンパク質) には免疫が
反応しないため**通常は抗体が作られない。**



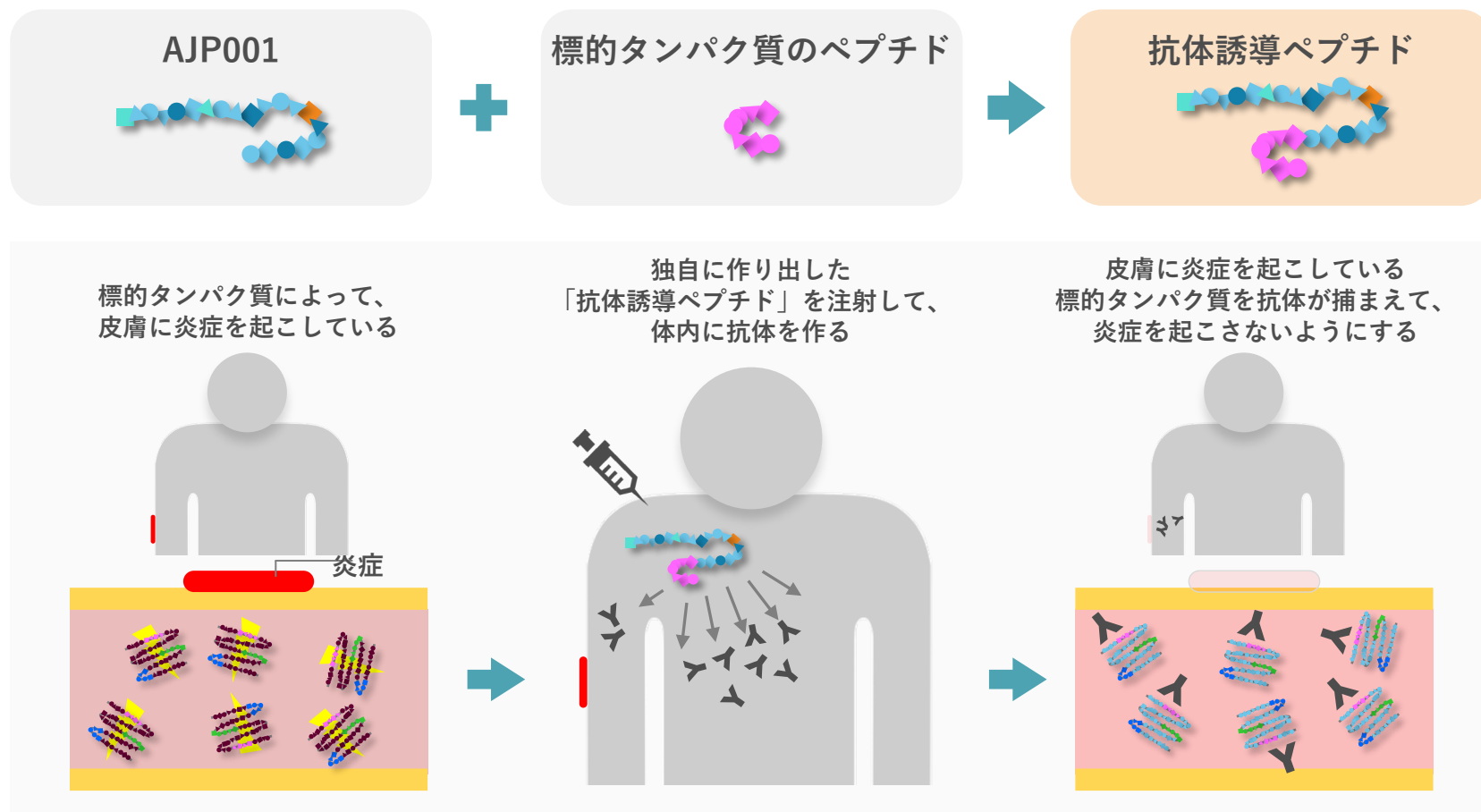
他社の慢性疾患向けワクチンには、
標的でないペプチドに対する抗体も
作られてしまうことがあり、
反復投与すると、**薬剤に対する抗体ができ、
徐々に効果が減弱してしまうことがある。**



1. 外来成分でなく内因性（生体）成分と投与しても抗体は作られない
2. 高分子の外来成分を投与するとそれ自体に免疫反応を起こしてしまう

タンパク質のような高分子でないワクチンが必要

ファンペップの独自技術による治療用ワクチン



免疫力を向上させる「AJP001」と標的タンパク質のペプチドを結合させて、最適化した独自の「抗体誘導ペプチド」により、抗体を作り出す

抗体医薬品と抗体誘導ペプチドは、
「抗体」による標的タンパク質を阻害する作用メカニズムが同じなため、
開発に着手しやすい。

領域	主な標的タンパク質 ^{注1}	主な対象疾患
免疫・炎症	IL-17A 、 IL-23 、 IgE 、TNF α 、IL-12/23p40、IL-6、 $\alpha 4\beta 7$ インテグリン、IL-4/13、IL-5、BLyS、IL-13、その他	尋常性乾癬、強直性脊椎炎、花粉症（季節性アレルギー性鼻炎）、関節リウマチ、関節症性乾癬、X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎、クローン病、潰瘍性大腸炎、気管支喘息、慢性蕁麻疹、アトピー性皮膚炎、その他
精神神経	$\alpha 4$ インテグリン、CGRP、NGF ^{注2} 、アミロイド β 、タウ ^{注2} 、 α シヌクレイン ^{注2} 、その他	多発性硬化症、片頭痛、疼痛、アルツハイマー病、パーキンソン病、その他
骨	RANKL、スクレロスチン	骨粗鬆症、その他
循環器	PCSK9、ANGPTL3	家族性高コレステロール血症、高コレステロール血症
その他	補体（C5）	発作性夜間ヘモグロビン尿症、その他

- (注) 1. 表中の標的タンパク質に対する受容体を含みます。うち、下線のあるものは、当社の抗体誘導ペプチド開発品の標的タンパク質です。
2. 開発段階の抗体医薬品の標的タンパク質です。